

議 長

皆さんお揃いでございますので、引き続き会議を再開を致します。

(午前10時53分)

々

それでは、石川議員の一般質問を行います。2番石川議員。

2番
石川議員

皆さん、おはようございます。石川でございます。今年は殊の外、猛暑に見舞われまして皆さんにおかれましては体調管理に非常に苦労されたのではないかというふうに思います。稲刈りも一段落致しまして、住みやすい過ごしやすい季節となって参りましたが、これから皆さんと共に明るく住みやすい川本町を目指して頑張りたいというふうに思っておりますので今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

それでは通告書に従いまして質問を致します。

先ず、1項目めは「連合自治会組織への移行について」でございます。

私は、川本町の集落・自治会体制に非常な危機感を持っております。現在、川本町の集落数は57、自治会数は31となっている。その内、65才以上の人口が集落の人口の50%以上の「限界集落」は13集落となっております。又、同じ内容で集落の戸数が19戸以下の「限界的集落」は、12集落に達しております。各集落の中で昔から行われてきた共同作業、又は葬儀についても支障をきたす状態が生まれております。自治会活動についても、人数が少ない為、同じ人がこの先ずっと役員を続けなければならない事や、規模が小さい為、いろいろな活動が制限されるなど困難な状況が次々として出てきております。そこで、私は現在の自治会を残した上で、その上部団体としての「連合自治会」組織を提案するものであります。その区割りについては旧村単位、又は旧小学校単位などいろいろと議論の余地のあるところではありますが、数としては6から8に集約をした連合自治会への移行が考えられると思います。組織の中身につきましては、集落支援員を兼ねる連合自治会長を配置し、そのもとに連合自治会として必要な組織づくりを先ずやるべきというふうに考えます。現在、川本町が配備をしております「地域おこし協力隊員」や、役場職員を実働部隊又はアドバイザーとして配置すべきとも考えております。連合自治会の中で、その地域のさまざまな問題を考え、解決していく中で、産業興しにつながるような活動になればと考えるが、町執行部の意見を求めるものであります。

2項目めは、「島根中央高校の支援について」でございます。

川本町は皆さんご存知のように6年前、川本高校と邑智高校の統合を目前に控え、ある意味、町全体が燃えていたように思います。川本町の宝であります島根中央高校をめぐる、ここ2、3年の関心事は、3学級維持の方向へ向かっているのが現状であります。しかしながら、邑智郡プラス桜江町の生徒数は昨年度の198人から、この先5年間を見ても20人から35人の減少が現実問題として出ている状態でございます。特に川本の生徒数を

2番
石川議員

みると小学校5年生が23名、6年生が24名、中学1年生が21人、2年生が27人、3年生が26人となっております。地区外または県外の生徒の確保が至上命題である事は言うまでもありません。しかし、町としての支援体制に迫力と緻密さを感じないのは私1人でありましょうか。私は4月の町議選の際、高校問題の本質を、①特化した進学クラスを作る。②吹奏楽部を始めとするクラブ活動の更なる充実。③川本町民が積極的に島根中央高校とつながりを持つ。例えば「社会人学級の創設」と訴えました。特に①に関連しますが国公立大学への進学は高校維持の生命線と考えております。町として出来る最大限の支援を望むものであります。県から統合問題が出てからでは遅いと思えるが、町執行部の考えを求めるものであります。以上であります。

議長

石川議員の質問のうち1項目めの「連合自治会組織への移行について」に対する答弁をお願い致します。番外左田野政策推進課長。

番外左田野
政策推進課
長

失礼します。2番石川議員のご質問のうち「連合自治会組織への移行について」の質問について、答弁させていただきます。

中山間地域におきましては、急速に進む、過疎化、少子高齢化などの影響も有り、自治会や集落の再編について積極的に取り組まれている地域がございます。特に、平成の大合併により、行政の区域が大きくなった市町において、積極的な取り組みがなされているように感じております。川本町の場合、平成の合併を経験しておりませんので、これまで集落や自治会の再編等につきましては、大きく取り上げられてきたと言うことはなかったように思いますし、行政としても積極的に関わってきておりませんでした。しかしながら、近頃の人口移動の状況や人口構成等を見たとき、川本町においても、今後の集落等のあり方について考えていかなければならない時期が来ているのではないかと感じております。議員のご指摘にもありましたように、その象徴的な事象として、これまで集落等で行ってきっておられた葬儀も葬祭事業者などに委託される例も多く見かけるようになった、これもそうだと思っております。そのような現状から、川本町としましても平成22年度から集落支援員を、23年度からは地域おこし協力隊を配置するなどして集落対策に関する取り組みを始めているところでございます。このような中、島根県でも「中山間地域活性化計画」を策定し、中山間地域の振興に力を入れていただいております。特に平成24年度からの新計画では、公民館等の範囲を単位とした地区を取り組み単位としてとらえ、新たな取り組みを進めようとしております。川本町でも北公民館の管内である三原地区をモデル地区として、担当の集落支援員を配置し、取り組みを行ってきているところでございます。議員ご提案のありました連合自治会の組織化についても、これからの集落を考えると、地域を支える一つの方法であるかと考えます。現在も、三原連合自治会や弓市七区自治会が自治会の枠を超えて連携し事業を行っておられる

番外左田野政策推進課長 ことは承知しているところでございます。このような連合体としての取り組みも、これからは必要性が高くなる可能性があるかと考えております。ただ、自治会の連携などと言ったことは、行政が何かの物差しをもって一方的に進めるようなことではないと考えております。行政としては、様々な研修の機会等を提供すると共に、それらを通じ話し合いの場を設けながら、情報提供をするなど、住民の皆さんが地域を取り巻く状況を知っていただくお手伝いをしたり、これからを考えていただくお手伝いをしたり、一緒に考えて行くこと、ここから始めさせて進めさせていただきたいというふうに考えております。以上でございます。

議長 ただいまの答弁に対しまして、再質問ございますか。2番石川議員。

2番石川議員 冒頭、本町としては合併を経験していないので行政としては係わってこなかったという事についてとありましたけれども、ちょっと理解に苦しみますけれども再度、ご答弁をお願い致します。

議長 番外左田野政策推進課長。

番外左田野政策推進課長 他町村との比較をしての話でございますが、他市町の様子を聞きますと合併の為に行政区域が大きくなったという事を捉えて、自治会組織等の見直しをされたところがあるというふうには聞いております。ただそういう事を経験しませんでしたので川本町の場合、そういう危機感が今までなかなか感じる事がなくおりましたので、住民の中からもそういう意見はあまり聞く事なくおりました。又、行政の中でも大きい問題としてなかなか取り上げて取り組む事をしてこなかったという意味でございます。そういったところを踏まえて、ここ数年は新たな取り組みとして取り組みを始めてきたという事を言いたかった事でございます。

議長 再質問ございますか。2番石川議員。

2番石川議員 現在の集落自治会組織の認識については、私と町執行部の共有する部分が先ほどの答弁多々あったかと思えます。自治会又は集落は私たちが行政と接していく上で最小限度の最小の単位であろうかと思えます。その自治会が、これ以上、今の姿のままで疲弊をしていく事だけは絶対に避けなければならないというふうに考えております。そこで現実問題と致しまして、現在の状況についてでございますが、高齢化率70%以上且つ戸数9戸以下の危機的集落、又はそれに準ずる集落、これがどのぐらいあるか、ちょっとお聞かせ願いたいと思えます。

議長 番外左田野政策推進課長。

番外左田野
政策推進課
長

議員のご質問の中にも限界集落の戸数等のお話しがございました。県の確率的な基準はないのですが、一般的に言われている基準を元に見ましたところ、限界集落と言われます60歳以上の高齢化率が50%を超えている集落が現在25集落ございます。57集落中の25集落ございます。その内の限界的集落と言われる戸数が19戸以下の集落が、議員ご指摘のありましたように12集落ございます。その内、もっと危機的な高齢化率が70%以上、又、戸数が9戸以下の集落につきましては、これは6月末の数字でございますが3集落ございます。以上でございます。

失礼します。もう一度ちょっと整理しますと、限界的集落という65歳以上の高齢化率が50%以上が25集落、その内の限界的集落、戸数が19戸以下が12集落、危機的集落、高齢化率が70%以上、戸数が9戸以下が3集落という事でございます。

議 長

再質問ございますか。2番石川議員。

2番
石川議員

ありがとうございます。この自治会組織の移行につきましては大きな問題でございますので、これから時間をかけて丁寧な説明なり自治会への説明なり検討が必要かというふうに考えますが、連合自治会が整備されました時には行政として、その地域が行う行事、又は催し物、又は最も大切な産業興しについて相当数の行政としての支援、思い切った財政面でのバックアップも必要かと考えますが、副町長、そここのところは如何でございますか。

議 長

手を挙げてお願いを致します。番外野坂副町長。

番外
野坂副町長

議員ご指摘のとおり、先ずこの現状につきまして課長が述べましたように集落の現状を学ぶ研修会等の場を通じて議論を深めて参りたいというふうに考えております。こうした取り組みを進める事に依りまして現状の共通理解が進んだ暁には、人々が地域活動に参加して生きがいを感じながら暮らし、地域の資源を活かした成合が生まれ、住民がお互いに助け合いながら地域を育てていくような自治会のあり方を一緒に検討して参って、その暁には行政としての支援を付加していくといったような事を今後、検討出来ればというふうに考えております。

議 長

再質問ございますか。2番石川議員。

2番
石川議員

次に、その中身でございますけれども、既に地域おこし協力隊等々の配備をされておりますけれども、地域おこし協力隊や役場職員の特に若手、これらの皆さんの活用についてお伺い致します。役場職員さん、若手の職員さんを中心に各連合自治会に2、3名ずつ張り付けを致しまして所謂その地域の責任者というような位置付けでございますが、相談窓口なりその地域のその連

2番
石川議員 合自治会のアドバイザーとしての機能を提案するものでございます。若手職員に執りましても庁舎内の仕事とは別に身のある体験、又は学習になると考えますが、副町長、如何でございますか。

議 長 番外野坂副町長。

番外
野坂副町長 庁内の若手職員を現場に張り付けて指導にあたらせるという事は大変重要な事というふうに考えております。先般も今議会で第5次総合計画を策定をさせていただきました。例をとりますと、こういった総合計画の中身につきまして若手職員が地域に出掛けて参りまして、皆さんの前で説明すると皆さんの方からご意見をいただくとする、こういった場を今後検討しようというふうに考えております。それからそういった若手職員に加えて、議員ご指摘のありましたように集落支援員を兼ねる自治会長さん、或いは現在も導入しております地域おこし協力隊、そういったところの連携の力を発揮しながら地域の力を高めていくといった方向に持っていけるように皆さんと認識を共有出来ればというふうに考えております。

議 長 再質問ございますか。2番石川議員。

2番
石川議員 ありがとうございます。この問題につきましては、これから先ほども申し上げましたようにゆっくりと時間をかけまして各自治会のご意見も賜りながらやっていきたいというふうに思っております。最後に町長にお伺いしますけれども、連合自治会組織への移行につきまして、この提言につきまして総合的な意見をお願い致します。

議 長 番外三宅町長。

番外
三宅町長 今日の少子高齢化、そして人口の減少という事を直視しますと、やはり議員ご指摘の連合自治会制度という事を考える時期にきているというふうに私も感じております。ただこの自治会というものがそもそも町民と一番密接な組織でありますので、自分達の組織、やはり住民が主体的に先ず考えるというそういう環境を整えていきたいというふうに考えております。3月にも自治会の役員さんを対象としました研修会を行いました。そしてこの10月には又、同じ対象者で自治会のあり方というテーマで研修を行います。そうした中で今おかれている川本のそうした状況を共通認識を持つ中で、これからそうした自治会制度のあり方というところの議論を深めていきたいというふうに考えております。

議 長 再質問ございますか。
(「よろしゅうございます」の声あり)

議 長	<p>ありませんか。</p> <p>(「はい」の声あり)</p> <p>はい、それでは以上で、1項目めの「連合自治会組織への移行について」の質問を終了致します。</p>
々	<p>次に、2項目めの「島根中央高校の支援について」に対する答弁をお願い致します。番外谷川教育課長。</p>
番外谷川教育課長	<p>それでは、2番目の質問であります「島根中央高校の支援について」という事で、高校支援に対する町としての考え方についてという事で答弁させていただきます。高校支援についての現状、その取り組みと考え方についてお答え致します。県立島根中央高校については、川本高校時代を含め、その存続について危機感を持って、支援をしてきております。県教育委員会は平成21年度からの10年間について「県立高等学校再編基本計画」を平成20年度に策定しております。その中で、高校再編については、個々の学校の実情に即し、具体的に統廃合を検討すべき時に行うとして、県としてはそれぞれの学校について、具体的には示さないとしております。又、基本計画の中で、学級増減の考え方として「2年連続で40人以上、1学級以上という事になります。その定員割れが見込まれる場合には、地域の実情や普通科、専門学科及び総合学科のバランスなども考慮しつつ学級減を検討する。」と明確に基準を示しております。島根中央高校は、町にとって重要な教育環境のひとつであり、地域経済、地域活力といった面でも大きな役割を担っていると認識しております。ご質問にもありました、3学級維持、すなわち81人以上の入学者確保に関しては、先ほど述べたとおり、学級減という問題に直接結びつく課題となっております。「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」に従いまして、教諭等の数を単純に計算してみますと、1学年3学級で全校360人定員が、1学年2学級で全校240人定員になりますと、7人の教諭減が想定されます。島根中央高校は普通科総合選択制という、県内においても、特異な教育課程により、普通科でありながら商業科目の履修から国公立進学系までの幅の広い生徒を受け入れることが可能になっております。この環境を保ちながら、進路対策や部活動強化など学校の魅力づくりを考える上では、3学級維持は必須条件であり、学校存続のための基本であると考えております。平成19年に島根中央高校が開校してからは、町内関係団体及び美郷町と連携し、島根中央高校後援会を組織し、後援会を通じて通学費助成、寮費助成などに取り組んできております。又、平成23年度からは過疎債ソフト事業として、新たな学校の魅力づくりと学校PRについて学校と協議、連携し取り組んでいるところです。旧邑智郡内から以前は多くの生徒が高校に通ってきていましたが、全県的な少子化にも見られるように減少が著しい状況です。県内の多くの県立高校で入試要件としての地域指定が全県指定となっており、県内での生徒確保について積極的</p>

番外谷川教
育課長

な働きかけも必要となって来ております。ですから、県外からの積極的な誘致も有効であると考えております。そこで、関西、関東方面や姉妹都市縁組をしている坂町の中学生や保護者の皆さんを対象に、学校訪問や学校説明会などを開催し生徒募集を強化しております。今後は実際に県外などから入学を希望する生徒の受け入れ体制として、寮や下宿の充実、身元引受人制度への対応などの課題についても町民の皆様にも協力を得ながら整備していきたいと考えております。又、学校の魅力づくりとして、学力向上、部活動強化を柱として、平成24年度からは、島根県の「離島・中山間地域の高校魅力化活性化事業」も活用し高校と共に魅力づくりに取り組んでおります。その中で、学力向上対策については勉強合宿、代ゼミサテライン講座の放課後学習などで個別指導を強化し難関大学や国公立大学への進学を目指せる体制づくりができるような支援をしております。部活動強化については、島根中央高校の特色である吹奏楽部、カヌー部、野球部を中心に、トレーニング器具などの環境整備や外部専門講師の招聘、顧問の先生方の生徒確保の為の活動費補助により、全国レベルで活躍できる環境づくりへ向けた支援をしております。ご意見をいただきました、進学クラスや社会人学級については、進路対策として、学校の魅力にもつながっていくと思われま。しかしながら、県立高校の教育課程に直接関与するような大きな問題でもありますので、高校や県教育委員会の十分な理解を得ながら、側面からの支援をし、進路対策が充実されるように進めていきたいと考えております。また部活動の強化においては、練習環境の整備はもちろんですが、それ以上にその環境を活用できる指導体制や指導者によるものが多いものと考えております。学校の体制づくりや地域指導者の体制づくりがますます重要となってきています。これらについても、学校の理解を得ながら町として積極的に関与しながら今後はその対策についても関わっていききたいと考えております。県内の離島・中山間地で県立高校を抱える8地域の内、5地域が定住対策など町長部局直轄の問題として取り組んでいることに見られるとおり、高校の存続問題は町にとって重要な政策課題であるという認識は変わりません。当面は3学級を維持することを学校との共通の目標としながら、本町の子ども達はもちろん、県内外からも生徒が集まるような魅力ある学校、地域をめざし、町または後援会として、出来る限り効果的な支援を、学校、県教育委員会と連携・協議しながら、取り組んでいきたいと考えております。以上です。

議 長

ただいまの答弁に対しまして、再質問ございますか。2番石川議員。

2番
石川議員

高校支援につきましては、これまでも各議員さんが何回も質問されておられますが、来年度の願書締め切りも間近に近づいて参りましたので、再度3学級維持、それに繋がります学校存続についてお伺いを致します。先ず最初に答弁と私の提案にちょっと認識の違いがありますので述べておきます。特化した進学クラスという意味についてでございますけども、現在で

2番
石川議員 　も国公立文化系、国公立理科系へ行けるクラスがある訳ですけども、そのクラスの内容の質を充実させるという意味の特化したクラスという意味でございます。例えば40人いたら、その内の30人なり35名ぐらいまでが国公立大学を狙えるというような学力を付けさせる為のクラスという意味でございます。ご認識をいただきたいというふうに思います。それでは先ず第1問目でございますが、離島・中山間地域の高校魅力化活性化事業ですか、これについてもう少し詳しくお聞かせ下さい。

議　長 　番外谷川教育課長。

番外谷川教育課長 　離島・中山間地域の高校の魅力化事業につきましては、昨年度から島根県の教育委員会、高校再編室あたりが中心になって出来上がった事業であります。3年間で1,500万円を県が助成して、その間にそれぞれの学校で魅力ある学校とはという事で地域づくりも合わせてやっていくという事でお金が出てくるシステムであります。

議　長 　はい、再質問ございますか。2番石川議員。

2番
石川議員 　中身についてもう少し詳しく、お金だけですか。

議　長 　番外谷川教育課長。

番外谷川教育課長 　基本的にはお金の支援ですが、後はそれぞれの学校と町なり地域が連携して事業に取り組むというのが1つの条件になっております。ですから今回、駅前に「しまちゅうステーション」というのが出来ておりますが、これもその事業を使った魅力化の1つとしてやっております。

議　長 　再質問ございますか。2番石川議員。

2番
石川議員 　先ほどの答弁の中で21年度から県の方で再編基本方針ですか、この策定が為されているようでございますが、郡内プラス桜江町の児童の数は教育課長さんをご存知のように5年後、つまり今の小学校5年生でございますが163名という数字が出ております。毎年、どう致しましても桜江町、それから旧大和村、邑智につきましても主な学校として浜田高校、浜田商業、江津高校、江津工業、石見智翠館、大田、飯南、又県外の新庄という所へ30名から40名の生徒さんが進学をします。これは親御さんの意志、本人の希望いろいろあると思います。30名から40名の生徒さんが出て行きます。それを差引致しますと5年後の、今の小学校5年生の郡内の高校2校への進学は合わせて130人余りという事になります。如何に先ほど課長さんも申されましたけども県内外から志望者を増やすか、これに掛かっているというふ

<p>2番 石川議員 議長</p>	<p>に思いますが、今一度、具体策の答弁をお願いします。</p> <p>番外谷川教育課長。</p>
<p>番外谷川教 育課長</p>	<p>仰るとおり非常に厳しい状況ですから、県内はそれぞれ全県一区という格好で今、県立高校は取り組んでおります。一部の高校以外は地域指定が無くなっているのですが、その中での奪い合いというのもこれも又24年度の入試の状況を見ますと、定員4,924人の募集に対して4,160人しか入ってきておりません。800人程度は全体で定員割れしている状況です。この中での奪い合いというのも限界があります。従って県外からの募集というのは今後大きな課題になってくるのではないかと考えております。それに合わせて今年度は10月の7日になりますけど初めて東京都内、それから近隣を含めて114校の学校の中の1ブースとして島根中央高校が関東圏外では1校だけ、そこへ参加してそこで高校の魅力について説明して募集を図っていきたいというふうに考えております。後は学校自体の魅力作りもやっぱりこれも一番大切な部分だろうと考えております。特に部活等、それから進学につきましても先ほど申しましたけれどサテライン等の活用、なかなか選ぶのは難しい話になりますので、そういったところでも出来るところの側面からの支援をしていきたいというふうに考えております。</p>
<p>議長</p>	<p>再質問ございますか。2番石川議員。</p>
<p>2番 石川議員</p>	<p>仰る意味は良く分かります。しかしながらもう一度、昨年度の出願状況、これをシビアに検証してみたいと思いますけども、87名の生徒さんが島根中央高校へ入学をされました。その内、皆さん既にご存知のように25名が野球部でございます。その内、自然にと言いますか監督の勧誘、部長の勧誘なしに入ってきたと予想される生徒さんが7名いらっしゃいます。そうしますと25から7を引きますと18名は、これは明らかに監督、部長さんの又島根中央高校の野球部としての勧誘の成果であります。87名から18名を引きますと69というような数字が出て参ります。という事は一部の部活だけに余りにも頼りすぎる、お願いをし続ける、この事に非常に危険性があるという事でございます。そこのところどのようにお考えか、教育課長さんにお伺いします。すみません、教育長さんをお願いします。</p>
<p>議長</p>	<p>番外松井教育長。</p>
<p>番外 松井教育長</p>	<p>石川議員が仰られますように現状の生徒数の確保については先ほど述べられた通りだと思っております。しかしながら今、島根中央高校の魅力というのをいろいろ模索しながらやっている訳ですが、どうしても野球部の方が目立っているのは現実です。それで今後、カヌー部、そして又、伝統有る吹奏</p>

番外 松井教育長	楽部をもう一度復活して、その3つを何とか盛り立てていきながら部員の確保をしながら人数の確保をしたいという事は今、思っているところでございます。
議 長	再質問ございますか。2番石川議員。
2番 石川議員	ありがとうございます。奇跡のブラスバンドと言われます吹奏楽部、それから実績を残しておりますカヌー部、この辺もしっかりと強化をしていただきたいというふうに思います。それから教育課長さんにお伺いしますけども、隠岐島前高校、これは課長さんも良くご存知だと思いますが、近年非常に成果を上げていらっしゃるんですけども、その取り組みについて感じておられる事をお尋ね致します。
議 長	番外谷川教育課長。
番外谷川教 育課長	確かに隠岐島前高校は非常に頑張っておられます。1学年1クラスから今年度から2クラスに増えております。今春も54名だったですか入学しております。(「59ですね」の声あり)59、数が可成り増えてきております。これは1つには隠岐というのは魅力がある部分が非常に大きいのかなという気がしております。それに対する憧れの部分があったりという部分もありますし、隠岐島前高校の取り組みとしましては高校の中に町職員から派遣で1名ほど専任がついて、その専任の方が自分のネットワーク等を活用しながら可成り県外へアピールをされているという事を聞いております。こういったところが若干ちょっと他と違う取り組みがあるのかなという気がしております。
議 長	再質問ございますか。2番石川議員。
2番 石川議員	先ほど教育課長さんの答弁にありましたけれども、学習力アップについてお尋ねを致します。普段の授業は勿論でございますが、先ほど言われました内容の中で勉強合宿、代ゼミサテライン、これを活用するという事でございます。非常に喜ばしい事だというふうに思いますが、その代ゼミの受講科目につきまして倫理と世界史というふうに聞いておりますが、センター試験を受ける場合にご存知の通り国・英・数が各200点、後は100点が3科目という事でございます。何故、国・英・数が入っていないのか、その辺をお伺い致します。
議 長	番外谷川教育課長。
番外谷川教	サテラインに出しております後援会を通じて補助をしておりますのは、こ

育課長 | のサテラインについての部分であります。後それ以外につきましては学校の方で授業後の補習等に取り組んでおられます。そういったところで学力のアップというのは多分図られているという事になっております。そこら辺で足りない部分といいますか手が回らない部分について、ここでサテラインを使った授業をするようにという事で補っている事でこの2教科になっていると思います。

議 長 | はい、2番石川議員。

2番
石川議員 | はい、そのところはもう一度、高校側と話をして下さい。高校の授業も先ほど申し上げましたように大切です。高校の教員のレベルも確かに高いと思います。しかし代ゼミのそういうサテライン、これはもう群を抜いたものがございます。これを学校の先生の授業、又は補習以外に使うというのは非常にこれは有効でございます。是非ともその辺をしっかりと話をされて倫理・世界史の他にお金の問題もあるでしょう。あと1科目、2科目絞って出来ないか検討をお願いしたいというふうに思います。それから先ほど関東、関西、坂町での募集という事でございます。私も非常に嬉しく思います。予定通り良い結果が出るようにひとつお願いをしておきたいと思っております。最後になりますが、町としての最終的な決意のほどを副町長さんに、ひとつお尋ねを致します。よろしく申し上げます。

議 長 | 番外野坂副町長。

番外
野坂副町長 | 島根中央高校の支援に向けた町の思いの総括をと受け止めさせていただきました。ふるさとを愛し更に発展する事を願って昭和57年4月1日に制定されました川本町町民憲章の全文に「教育と文化に誇りを持つ町」とあります。この歴史と伝統のあります島根中央高校は正に教育と文化の拠点であるというふうに考えております。議員ご指摘のとおり正に宝であるというふうに考えております。この島根中央高校の一層の魅力化に向けましては町としましても全力を挙げて支援して参りたいというふうに考えております。更に県に対して必要な取り組みがあれば協力に働き掛けて参りたいというふうに考えております。

議 長 | 再質問ございますか。

(「はい、以上、終わります」の声あり)

はい、これをもちまして石川議員の一般質問を終了致します。